

一般社団法人日本翻訳連盟からのお知らせ

昨今、新型コロナウイルスの影響もあり、在宅でできるインターネットを利用した仕事に人気が集まっています。翻訳という仕事では、多くの個人翻訳者が在宅で活躍しています。日本翻訳連盟（JTF）は産業翻訳・通訳の団体として業界の健全な成長と発展に寄与し、翻訳者通訳者の地位向上を目指しています。

一般の方々が翻訳という職業に魅力を感じ、またそうした翻訳者を目指す方々が増えていることは大変喜ばしいことではありますが、最近「簡単に翻訳者になることができ、高収入を得られる」などという宣伝文句で会員を集める「翻訳学校」が出現し、翻訳者にとっても、翻訳会社にとっても不幸なトラブルに発展する事例が報告されています。皆様にご注意いただきたくお知らせします。

そのような「学校」で、翻訳業界の通念からは大きくかけ離れた、翻訳業務のクオリティを著しく毀損しかねない指導が行われており、入会後に実態を知って後悔したという話も寄せられています。例えば一部の学校では、翻訳会社に登録させるために、履歴書のテンプレートをコピーするように指導したり、実績の記入欄に、授業の練習問題の解答を実績として記入させたりすることなども行われているようです。

履歴書は本来、応募者本人に関わる経歴や実績という事実を伝える書類です。よって、取引実績には、応募者本人の具体的な取引実績（実際に報酬の支払いの発生した案件）を記載しなければならず、例えば、練習問題やトライアルなどの経験を「実績」として記載することは虚偽の申請に当たる可能性がありますので、ご注意ください。

たとえ練習問題やトライアルなどの経験を「実績」として記載することによって翻訳会社に登録することができても、実際に必要な語学力が身につけていなければ、長く仕事を続けていくことは困難です。

実績が偽られることにより多くの翻訳会社が迷惑を被っていますが、実績が偽られる理由として、「実績がないとトライアルを受けられない」「トライアルを受ける機会が与えられない」ことが挙げられることがあります。日本翻訳連盟としては今後も引き続きトライアルが免除されたり、実務経験がなくてもトライアルが受けられる機会を増やすことができる取り組みを継続してまいります。皆様のご意見、ご協力をお願いします。

日本翻訳連盟は、これから翻訳者を目指す方々に、是非とも必要な語学力を身につけ、研鑽したうえで、翻訳者として社会に貢献していただきたいと願っております。

令和2年（2020年）12月11日

一般社団法人日本翻訳連盟